

「2021年度 全学共通科目に関する 教育改善点」報告

2021年度に新たに行った取り組みについてのみ記載

科目・項目	改善内容	改善の動機・理由等(該当するものに○を記入してください)					
		部会等提案	授業アンケート	自治会・学生懇談会等要望	担当教員要望	事務局提案	その他
基礎ゼミナール	・来年度の授業担当教員が参加する基礎ゼミナール懇談会で、受講した学生や担当した教員の発表を新たに行い、より実質的な内容となるよう改善した。					○	
情報科目	学術情報基盤センターと連携し、授業案内ページに新入生向けの情報(情報倫理講習の受講方法、学生メール、kibaco等)を公開した。				○		
	前年度の情報倫理講習の方法を踏襲し、受講の有無を確認するチェックリストを設定・実施した。					○	
	対面授業とオンライン授業が混在することを想定し、マイドキュメントの利用とデータの持ち運びに関する資料をコースウェアに修正・追加した。		○		○		
	新規もしくは担当年数の少ない非常勤講師を対象に、オンライン授業(リアルタイム・オンデマンドの両方を含む)とハイブリッド授業の実施方法に関する説明をした。				○		
	情報リテラシー実践のカリキュラム改訂(シラバスの修正・コースウェアの見直しを含む)の準備を進めた。	○					
実践英語	クラス編成テストの実施の際、1年生だけでなく、昨年度受けさせることが出来なかった2年生も任意で受験できる取扱いとした。					○	
未修言語科目	新型コロナウイルス感染拡大の中、教員間で教学経験の共有や意見交換を行いながら、対面授業、オンライン授業、ハイブリッド授業といった種々の形態を、授業特性や状況に応じて実施した。またこれに伴い、LMS(kibaco)の活用を拡大し、自律学習の機会の充実に努めた。						○
	「異文化研修」の核となる海外研修が新型コロナウイルス感染拡大で中止、ないしオンライン実施となったため、後者の場合はガイダンス内容を大幅に変更した。CEFRに基づく欧州の標準的な授業形態やこれに合わせた教材の案内に特化し、授業やレベル分けテストへの準備(心理的負担の軽減を含む)を一人でも進めやすくするとともに、授業における文化差への気づきを促した。				○		○
	語学教育の特性を鑑み、クラス定員を35名に縮小し、学習環境を改善した。				○		○
	朝鮮語の履修者増加に伴い、クラス数を増やし、学生の履修機会を確保するとともにより丁寧な教育を可能とした。		○				○
	中国語Ⅰにおいて統一して使用している教科書の改訂を行い、学生のレベルとニーズに合致するよう改善を図った。				○		○
理系共通基礎科目	対面での授業を復活し、課題の配布回収等にkibacoを積極的に利用するなどして「新しい対面授業」を実施した。	○			○		○
教養・基盤科目	・2022年度 教養・基盤科目の履修登録者数の上限設定について、教務委員会において議論・決定し、従前の対象に加え、「新しい対面授業の趣旨を実現するために、授業担当教員が希望する場合」について新たに調査し、基礎教育部会において審議・決定した。						○
保健体育科目	各実技科目の成績分布を共有し、授業担当者間の成績評価の偏り改善に取り組んだ。				○		
教室設備等	夏季(7月1日～9月30日)については、6号館における空調稼働を次のとおり変更した。 ・空調運転開始について、これまでの「在室者のスイッチオンによる運転開始」から「授業開始30分前に自動で運転開始」に変更 ・温度設定をこれまでの28度設定から26度設定に変更						○ (大学教育センターからの要望)
その他	食堂の混雑を回避できるよう、昼食用の弁当販売について生協等と調整した。					○	
	オンライン授業を受講できる教室のリストをCAMPUSSQUAREに掲示し、校内での受講環境を確保した。					○	